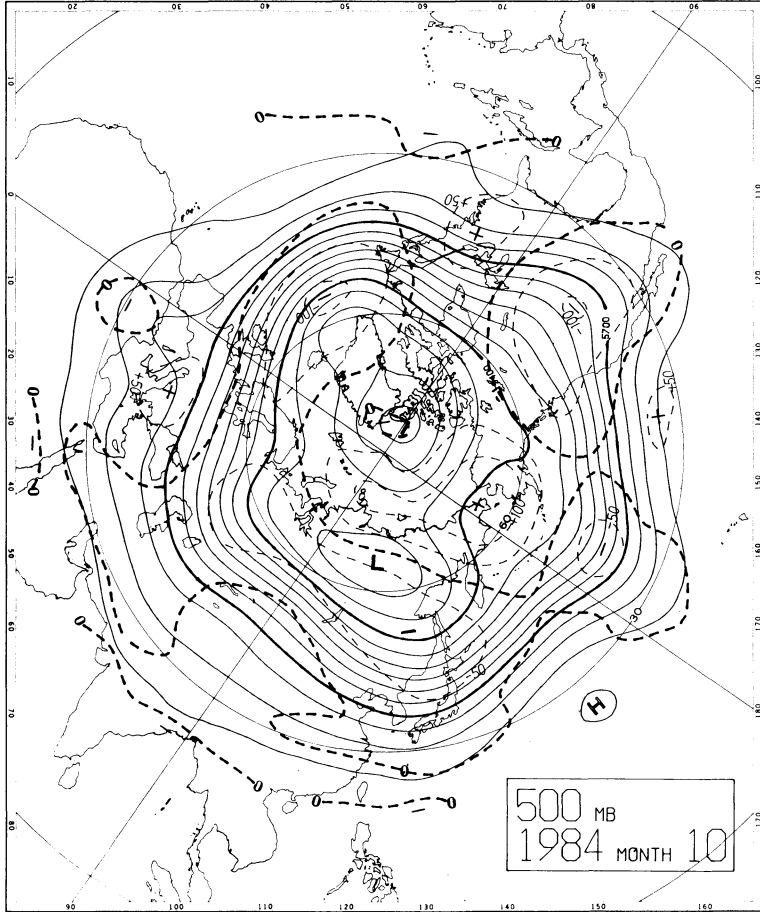


月平均500 mb天気図. 1984年10月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)



北極寒気は放出期

極うずは2つに分れ、主極うずはグリーンランド北部に、もう一つはシベリア東部に南下し、高緯度帯では波数2が形成された。中緯度帯では波数4～6が卓越する循環となった。

北極地方の寒気は、極東、北米西部、大西洋北部方面などへ放出された。このため極地方は広く正偏差におおわれ、北半球の極うず指数は、1946年以降、第2位の高い記録となった。

* 極うず指数と寒気の蓄積/放出

極うず指数は北極地方の寒気の動向をみる指数で、70°Nと80°N帯の500 mb高度偏差の平均値で表される。正の指数は極寒気の放出期に当り、負の指数

は寒気の蓄積が極地方ですすんでいることを示すと考えられる。

ベーリング海付近のリッチの発達により、極東方面ではトラフが顕著だった。日本はこのトラフ場の中にあり、北日本を中心に標準偏差の2倍以上の強い負偏差におおわれた。このため北日本では低温となり、月平均気温偏差が -1°C 以上の所もあった。しかし、中部日本以西では寒気移流が長続きしなかったことに加え、移動性高気圧が日本付近をしばしば通過して晴天の日も多く、日中に比較的温暖だったため、ほぼ平年並の気温だった。なお、全体として日本付近は寒気場に入り、前線活動は平年より不活発で、全国的に少雨傾向となった。(気象庁長期予報課 栗原弘一)